

こがねい

1996. 4. 第3号

放射能測定室だより

発行 小金井市放射能測定器運営連絡協議会
連絡先 小金井市梶野町1-3-17 大塚荘
Tel. 0422-54-0134 (荒木)

『チェルノブイリ』から10年がたちました。

——核被害についての説明は
まだ始まったばかりです。——

早いものでまた一年がめぐり、新しい年度を迎えましたが皆様いかがおすごしでしょうか。

昨年度も阪神大震災のショックに続き、フランスによる核実験、稼働を始めたばかりの高速増殖原型炉“もんじゅ”の事故といろいろなことがありましたが、私達放射能測定室では会員である五十嵐京子さんが4月にチェルノブイリ原発事故被災地チェチェルスクを訪れるという機会に恵まれました。今年にはチェルノブイリの事故から10年目ということで、メディアでも多く取りあげられておりますが、実際にその足で現地を訪れ、またその報告に接した私達は、当地での暮らしの様子がいかに事故の重さを伝えるかということに改めて実感致しました。

今号は五十嵐さんのレポートを中心にお届けします。

チェチェルスクを訪問して

小金井市放射能測定器運営連絡協議会 五十嵐 京子

「チェルノブイリに放射能測定機をおくる会」に同行して、4月21日から5月1日にかけて初めて被災地を訪ねてきました。小金井では1986年のチェルノブイリ原発事故を契機として市民が測定作業を行う方式で放射能測定室を設置しており、これまで「おくる会」にカンパ活動をしてきた事もあり、仲間から一度現地を見てきた方がという声に押される形での出発でした。ただそれだけではなく1月に起きた阪神大震災が何となく頭の片隅にあり、原因は異なるとはいえ、被災地の様子を見たいという思いがあったことも、訪問を決心させた要因でした。

ビザを取るために一度モスクワに入り、夜行列車でベラルーシのゴメリへ。そこから車で目的地チェチェルスクに入ったわけですが、始めてみるロシアの広大な自然の風景に目を奪われており、チェチェルスクに着く直前に

なって汚染地帯だという事を思い出したくらい被災地という言葉とは無縁な風景が目前に広がっているだけでした。

事前に小泉先生から事故当時よりも更にソ連崩壊によつての混乱で必ずしも良い状態ではないと聞いていましたが、ロシアに入つてまず感じたのは経済的な状態が良くないということで、それは最後までついて回りました。

チェチェルスクにて

4月23日にチェチェルスクに着いてから1週間、主に菅井先生や安藤さんと行政の方々に会つて事故の被害状況や事故対策や財政状況を聞いて歩きました。日本であれば行政に調査に行けばまず、調査項目に関する資料がなにかしら出てくるものです。その資料がなかなか出ないので、通訳を介して口頭で聞き取りをするわけですが、いまひとつ胸に落



ちる説明が聞きにくいのと、何とか資料が欲しいと頼み込んで手に入れてもコピーがすぐできない、もちろん文字もわからないという予想のつかない不便さを感じつつも何度か行政を訪ね、同じ人と2~3度話をする中で、具体的な農業への影響や事故対策を聞くことができたのは、現地を訪ねた甲斐があったというものでした。

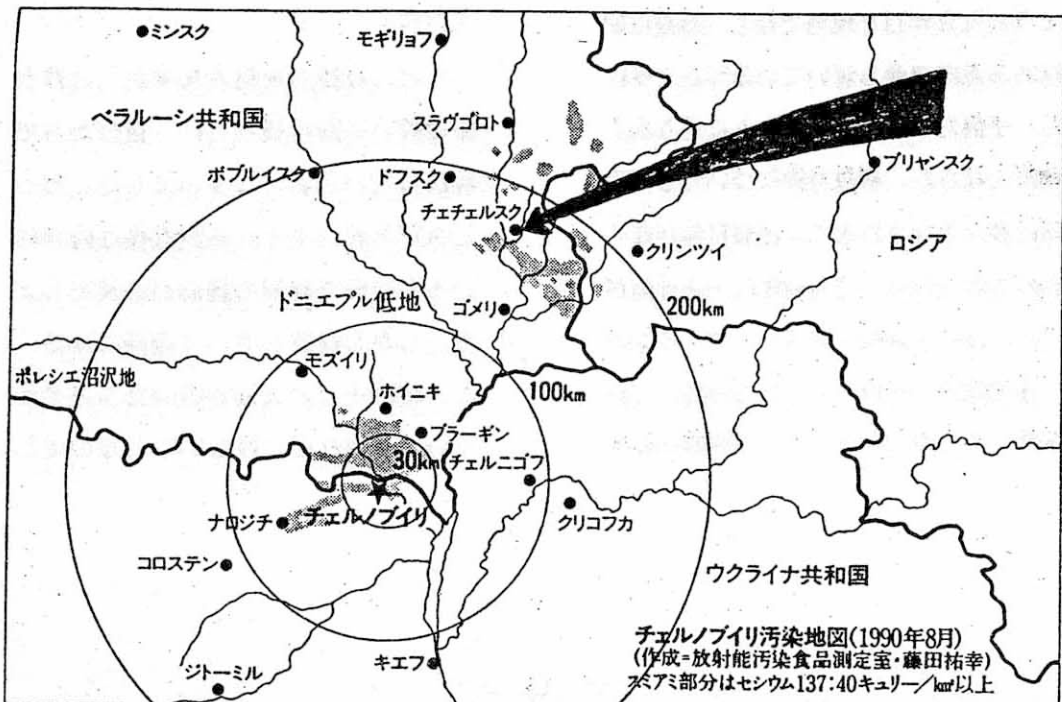
農業が主たる産業なので、事故の汚染が与えた影響は確かに大きく、麦の生産量の事故以前の80%はまだましにしても、じゃがいもの方は5%以下に、牛も半数以下に減ってしまい、羊は毛の中に放射能が残るために現在はほとんどいなくなり、亜麻の生産もなくなってしまったという説明は、重い事実として事故の大きさを見せつけるものでした。しかもこの汚染はこれからどの位の間続くかわからないのです。

チェチェルスクの人口は1万人から6千人

に減り、世帯数でいうと1600世帯の人々が移住して主にミンスクなど都市に引っ越しで行ったそうです。最近になって10世帯の人が移住先での暮らしがうまく行かず、戻ってきたと聞きました。人間が暮らすということの難しさを思います。仕事や社会的な理由と聞きましたが、暮らすということは場所があれば良いというものではないということでしょう。そうした実態にどこまで行政が対応できるのでしょうか。事故は根本のところから住民の生活を変えてしまったのです。

事故対策について

現地での事故対策としてまず道路の舗装があります。実際に私たちが“たんぼぼ”という測定器で測ったところ舗装された道路の上は値が低く、すぐ脇なのに草原のところが高いというのは不思議でした。そして特に病院や幼稚園など弱い者が集まるところの土を測



り、汚染の高いところの土を入れ替えるという作業や、ベチカに使う木材が汚染されているところから天然ガスへの切り替えを計画しておりパイプラインの工事のことなど汚染対策を聞きました。

子供たちへの対策はできるだけやっているという印象を受けました。子供たちは年2回サナトリウムに出かけます。ちょうど私たちが訪ねた時に出かけるところを見かけましたが、今年は600人の子供たちがイタリアに出かけるそうです。86年には2か月間子供たちを移動させたそうですが、事故後3年間はその別れが悲惨な状況だったとか、今では親たちも子供のためと思って整然と送り出すそうです。その他に、学校では給食室が日本のランチルームのような状態で作られており、放射能測定をした安全な食品を食材料にして朝と昼の2度の食事をとるようになっています。

ちょうど丸9年目を現地で迎え、事故に関してはある意味で落ち着いている印象を受けました。子供たちをサナトリウムに送り出すのも整然となされ、事故対策についても行政の説明は淡々となされます。汚染自体がなくなるわけではないにしても対策は一応計画が提示され、移住・除染・ガスパイプラインの設置・住宅政策・子供たちへの対応等々の対応策を聞くことができました。今問題なのは

財政です。インフレがひどく特にここ3年位は極端だそうで、去年は4~5回予算を組み替えたとか。パンが以前の1万倍の値段になっています。汚染対策費はチェルノブイリ基金と言って、全ての事業者が年2%の税金を出して財源としている基金から来ることになっていますが、インフレがひどくてなかなか計画が進まないのが実態でした。

例えばインフレがひどくても、以前であれば豊かな自然の恵みである森のきのこや木の実を採って食べるのができたのに、今はそれができない。しかも森は昔と同じように豊かな緑と風景を人々に与えてくれているのに、入ることができない。残酷な事実をこの目で見てきました。ちょっとした間森に入りその美しさに感動を覚えてきましたが、美しければ美しいほど重苦しく事故のことを感じなくてはいけないことは辛いことでした。

「どんな援助を望みますか」と言う私の問いに副市長さんは、自分たちで解決したいとおっしゃいました。もっともだと思います。事故直後は確かにいろんな形で周囲の援助が必要でしょう。しかし復興していく段階になると、結局その人達が自分たちでやっていかなければいけないことなのでし

よう。私たちは隣人としてそこに住む人達の自立を願いたいし、その範囲での協力はしなければと思います。

日本のような開発された豊かさにはない広大な自然がそこにはありました。便利で発達した今の日本には、その便利さと引換えに生じた多くの弊害で悩んでいる姿があります。だからこそよけいに身に見えない放射能という汚染の重さを感じた旅でした。

汚染地域、日本全土の1.7倍

チェルノブイリ事故
毎日新聞 7/28

京大 助手 7年後の報告を入手

チェルノブイリ原発事故（一九八六年四月）などの影響で、日本全土の二・七倍の面積に及んで、当時の〇・二キロー以上の汚染地域は日本全土の二・七倍の面積に及んでい

放射能汚染、事故30年後も

【モスクワ（ウクライナ）】一九九一年四月、ウクライナ北西部のチェルノブイリ原子力発電所（原発）で発生した原子力事故から三十周年を迎える。この事故は、世界最大の原子力事故と見られており、その影響は現在もなお続いている。事故発生後、周辺地域は広範囲にわたって汚染され、住民の避難や土地の放棄が行われた。また、放射性物質が風や水を通じて遠くまで拡散し、生態系にも深刻なダメージを与えている。事故発生後、チェルノブイリ周辺には「赤い森」と呼ばれる放射能汚染がひどい地域が生まれ、多くの動物が死んでしまった。また、事故発生後、チェルノブイリ周辺には「赤い森」と呼ばれる放射能汚染がひどい地域が生まれ、多くの動物が死んでしまった。

【ウクライナ（ウクライナ）】一九九一年四月、ウクライナ北西部のチェルノブイリ原子力発電所（原発）で発生した原子力事故から三十周年を迎える。この事故は、世界最大の原子力事故と見られており、その影響は現在もなお続いている。事故発生後、周辺地域は広範囲にわたって汚染され、住民の避難や土地の放棄が行われた。また、放射性物質が風や水を通じて遠くまで拡散し、生態系にも深刻なダメージを与えている。事故発生後、チェルノブイリ周辺には「赤い森」と呼ばれる放射能汚染がひどい地域が生まれ、多くの動物が死んでしまった。また、事故発生後、チェルノブイリ周辺には「赤い森」と呼ばれる放射能汚染がひどい地域が生まれ、多くの動物が死んでしまった。

【ロシア（ロシア）】一九九一年四月、ウクライナ北西部のチェルノブイリ原子力発電所（原発）で発生した原子力事故から三十周年を迎える。この事故は、世界最大の原子力事故と見られており、その影響は現在もなお続いている。事故発生後、周辺地域は広範囲にわたって汚染され、住民の避難や土地の放棄が行われた。また、放射性物質が風や水を通じて遠くまで拡散し、生態系にも深刻なダメージを与えている。事故発生後、チェルノブイリ周辺には「赤い森」と呼ばれる放射能汚染がひどい地域が生まれ、多くの動物が死んでしまった。また、事故発生後、チェルノブイリ周辺には「赤い森」と呼ばれる放射能汚染がひどい地域が生まれ、多くの動物が死んでしまった。

チェルノブイリ事故炉
放射能含む水
流出の恐れも

ウクライナ環境相
「モスクワ17日」西村陽
「ウクライナのウクライナ
環境保護・原子力安全相
は、大惨事からまっ
周年に

子供の甲状腺がん
ベラルーシで急増
↑
チェルノブイリ原発事故影響
【ワシントン】24日共同
二十四日付の米紙ワシントン
ポストは、史上最悪の
原発事故であるワシントン
のチェルノブイリ原発爆発
事故（一九八六年）で放射
能に汚染された隣国ベラル
ーシで甲状腺（せん）がん
子供の間で急増し、
ていた広島の
康被

ベラルーシの
委員会が予測
45 朝日新聞

アジアの環境悪化、深刻に

環境部 海外環境部
（一）（二）（三）

1993年度 測定結果一覧表

(1993.4~1994.3)

測定品目	種	原産国	測定結果 (ベクレル/kg)
小麦粉 (マカロニ・唐揚げ素類)	3	日本	0
(スパゲッティ・素類)	2	イタリア・日本	★検出限界値以下
大麦	1	日本	★検出限界値以下
オートミール	1	日本	0
丸麦	1	日本	0
香辛料 (パセリ粉末・バジリコ ローリエ・山椒)	5	不明・ギリシャ 中国	0
(オレガノ)	1	不明	☆0.51 (セシウム134)
*水道水	3	市内	0
*薬物 (サラダ菜・かき葉)	3	日本・市内	0
乳製品 (牛乳・粉末乳酸飲料 粉ミルク・ナチュラルチーズ)	8	日本・ロシア	0
(スキムミルク)	2	日本	★検出限界値以下
きのこ (干し椎茸)	1	日本	0.11 (セシウム137)
(干し椎茸)	1	日本	☆13.40 (セシウム137)
(干し椎茸)	1	日本	★検出限界値以下
(きくらげ・しめじ 干し椎茸)	5	中国・日本	0
茶 (中国茶・ウーロン茶)	2	中国	0
(暴暴茶)	1	中国	★検出限界値以下
魚類 (あじ干物)	1	不明	☆5.46 (セシウム134)
(さば文化干し)	1	不明	0
(カニ缶詰)	1	ロシア	★検出限界値以下
切り干し大根	1	日本	0
エビオス	1	日本	0
春雨	1	中国	0
柿ピーナツ	1	中国・タイ	0
いり胡麻	1	日本	0
ウォッカ	2	ポーランド・ロシア	0
チョコレート	1	日本	0
大豆	1	日本	0
メイプルシロップ	1	カナダ	0

計 54件 (保育園・学校給食食材として、この他に29件測定しました。)

(セシウム134 はチェルノブイリ事故により大量に放出された放射能、
セシウム137 は過去の核実験により地表に蓄積されている放射能です。)

『94年度の測定結果は、秋の『消費生活展』で発表します』

1994年度&1995年度 測定結果一覧表

(1994. 4~1996. 3)

測定品目	種	原産国	測定結果 (ベクレル/kg)
小麦粉 (パン粉・スパゲッティ うどん・ラザニア・パスタ 食パン・マカロニ)	9	イタリア・日本 フィンランド・不明	放射能は 検出されませんでした
香辛料 (ローリエ)	1	不明	〃
水道水	1	市内	〃
乳製品 (牛乳・乳児用液体ミルク プロセスチーズ・エバミルク 粉ミルク・ナチュラルチーズ)	17	日本・フランス イギリス・アメリカ アイルランド フィンランド・不明	〃
きのこ (干し椎茸・ふくろたけ オイスターマッシュルーム マッシュルーム)	5	日本・マレーシア 台湾・フィンランド	〃
マッシュルームクリームスープ	1	ドイツ	〃
茶 (ウーロン茶・中国茶)	4	台湾・中国	〃
(1986年産緑茶)	1	日本	12. 59 (セシウム)
海草 (干わかめ・もみのり 岩のり・地のり)	4	日本・不明	放射能は 検出されませんでした
クッキー・ビスケット	5	デンマーク・ラトビア ベラルーシ	〃
メイプルシロップ	1	カナダ	〃
ジャム (ブルーベリー・きいちご)	2	フランス フィンランド	〃
ピーツ水煮	1	ロシア	〃
人参ジュース	1	ロシア	〃
レトルトカレー	1	不明	〃
フレンチオニオンスープ	1	アメリカ	〃
オリーブオイル	1	イタリア	〃
白ごま	1	不明	〃
春雨	1	中国	〃
魚類 (さば干物・煮干し)	2	ノルウェー・日本	〃
肉類 (豚肉缶詰)	1	リトアニア	〃
(トナカイ燻製)	1	フィンランド	232. 13 (セシウム)

計 62件 (この他に保育園・学校給食食材として 56件測定)

- ・セシウムはチェルノブイリ事故により大量に放出された放射能です。
(過去のピキニヤや中国での核実験により地表に蓄積されている放射能でもあります。)
- ・NaI検出器にて測定しました。(6時間測定)

やっぱり起きた

『もんじゅ』事故

昨年12月8日、高速増殖炉「もんじゅ」（福井県敦賀市）において大量のナトリウムが漏れ炎上する事故が起きました。ナトリウムの漏洩量は、推定700キログラムとされていますが、運転中の配管からのナトリウム漏れとしては高速増殖炉史上で最大の規模であるということです。事故後さまざまな問題が明らかになりました。以下が主なものです。

①事故の安全解析上の問題

原子炉設置許可申請書では二次系配管室でのナトリウム漏洩事故を想定しての安全解析をしていますが、そのシナリオは実際の事故と大きく違いました。想定ではナトリウムは漏れても貯蔵タンクに回収されるようになっていたのに実際にはすべて燃えてしまったのです。

②原子炉を緊急停止しなかった問題

運転員は運転マニュアルに従って対応したということですが、マニュアルが不十分でしかも現場の運転員には緊急停止の権限がなかった為、直ちに原子炉は止められませんでした。

③ナトリウム漏れ後の無対策

ナトリウム用消化器はいっさい役にたたず、また空調もとまらなかったために火災は続きました。

④通報連絡の遅れ

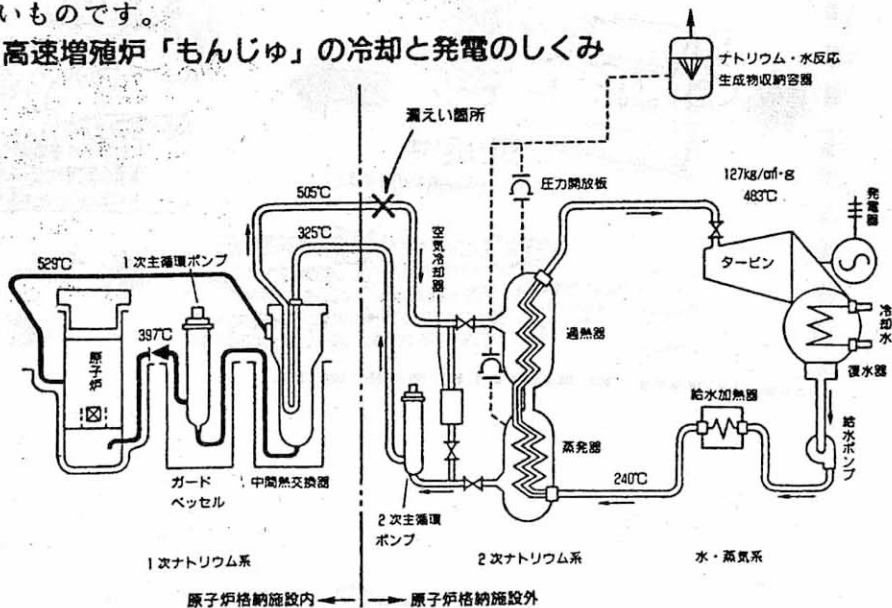
動燃から県や敦賀市への連絡は事故発生から一時間あまり遅れました。通報体制の改善も強く求められています。

⑤事故隠しの問題


動燃は事故現場のビデオの核心部分をカットして編集し、また最初に事故現場を撮影したビデオについては隠していたことがその後明らかになりました。これらの事故かくしについては科学技術庁の責任も問われてきます。

『もんじゅ』はこれからどうなるのでしょうか。一刻も早く永遠の眠りにつかせてあげたいものです。

高速増殖炉「もんじゅ」の冷却と発電のしくみ



▶ 測定依頼をお寄せください!!

申し込み方法等は  です。よろしく

お願いします!

なお、実際に測定にかかわりたい方、
 共に協議会に参加したい方、いつでも募集して
 いますのでご連絡ください。大歓迎です。

はかってほしい時は



1 市役所経済課に問い合わせの
 申込みをしてください。
 0423-83-1111
 内線 279 (経済課)

2 測定日の指定が
 あります。
 OROB
 に記入
 ください

3 指定日の朝9:00に検体(はかりたいもの)を
 市庁舎に持ち、協賛会関係者に
 わたします。(※検体は細かく、だしていただく)

4 検体票に
 必要事項を記入。

5 夕方、検体を引き取りに来てください。
 測定結果を記入した通知書をお受け取り
 ください。

測定中
 6時間取り込み。

※ 200ccの容量が必須です。
 (スパゲティは150gぐらい)
 生しいたけは210gぐらい)など
 量加によって容量が異なるので
 協賛会にお問い合わせください。

※ 食品に限ります。

※ 無料です。